



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

ブータン便り

2019年6月11日

第10号

クズザンポーラ！6月に入り、日本は各地梅雨入りしていますね。ブータンもこれから雨期本番を迎えます。一日中雨が続くことはありませんが、急に降り出すことがあるので、常に折りたたみ傘を持ち歩くようにしています。アパートの温湿度計は、気温22度前後、湿度40～50%を示しており、室内は快適で暮らしやすいです。隣国インドは連日40度を超える暑さが続いているようです。最近ティンブー市内でインド人観光客を多く見かけますが、避暑に来ている人も多いのではと思います。

さて、今月ブータンで国連世界観光機関（UNWTO）の国際会議が開催されました。開催国の事務局として、ブータン政府観光局（TCB）は総力を挙げてこの一大イベントに臨みました。私はカメラ係として終始会場にいらせてもらったので、いろいろと勉強になりました。今号ではUNWTO国際会議にまつわる話をお伝えします。

UNWTO 東アジア・大洋州・南アジア地域会合

6月3日から5日まで、ティンブーでUNWTOの東アジア・大洋州および南アジア地域加盟国が参加する国際会議と関連行事が開催されました。会議にはUNWTO加盟23か国の政府高官をはじめ、29か国160人以上の観光当局者や専門家が参加しました。ブータン王国は開催国として、会議運営、ロジスティクス、視察旅行などを、UNWTO事務局とともに実施しました。

初日は、持続可能な観光開発にかかる各国の政策や官民連携のあり方、国連持続可能な開発目標（SDGs）、ブータンの国民総幸福量（GNH）における観光政策などについて、パネルディスカッション形式で意見交換しました。2日目の委員会では、UNWTOや加盟国の活動報告、UNWTO理事国の選出、次回開催国の承認等がなされました。3日目はTCBが2コースの視察旅行を企画し、訪問団にブータン観光を楽しんでもらいました。ティンブー市内視察コースでは、ブッダポイント、メモリアルチョルテン、ターキン保護区を訪問しました。パロ・タクツァン僧院コースは天気にも恵まれ、参加者の8割が標高3100mの崖に建つ僧院まで辿り着くことができました。

会議の全体を通して、ブータンの"High Value, Low Volume"観光政策やGNHの考え方が、各国参加者に評価されていました。オーバーツーリズムやゴミ問題、気候変動など、どの国も共通して抱える問題があります。ブータンも例外ではありませんが、これまでとってきた独特な観光政策がなかったら事態はもっと深刻だったかもしれません。



東アジア・大洋州・南アジアの観光当局リーダー



会場ホテル入口に設けられた歓迎門



マーチャンの儀式で会議の成功を祈る



UNWTO スラブ・ポロリカシュヴィリ事務局長



ステージのしつらえもブータン式



夕食会にブータン国首相が飛入り参加



ブータン伝統工芸品の展示



ティンブー市内視察コース



パロ・タクツァン僧院コース

国際会議を招致するということ

国際会議はインバウンド振興策としての MICE ツーリズムの一環で、多くの国や自治体が誘致を図っています。その目的は、単に集客を増やして経済効果を得るだけではなく、人や情報のネットワークを構築して地域の競争力を高めることでもあります。

今回の UNWTO 国際会議はブータン政府が招致したものです。同僚に聞くと、原則として費用は開催国が負担することになっており、UNWTO からの拠出はないとのことでした。そこで TCB は、観光業界からスポンサーを募り、車両やドライバー、ガイドなどはボランティアの協力を得て、外務省、警察、医療関係者など関連機関と連携しつつ、チームワークと集中力を発揮して、この大事業を見事に成功させました。私は 2016 年の G7 倉敷教育大臣会合の開催地事務局として携わったことがあるので、国際会議に大変な労力とお金がかかることを知っています。倉敷市に比べて TCB は少人数低予算ながら、よくぞ国際会議を実施できたなあと感じています。いざというときは、それぞれがリソースを持ち寄って、ないものは融通し合う。そんなブータン式の仕事のやり方は、ブータンの社会や文化に根差したものだと思います。そんな「優しい」社会に包まれていることが、ブータン人の幸せの秘訣なのかもしれません。